

評価対象年度	平成 27 年度
1次評価日（主幹等）	28 年 月 日
2次評価日（課長等）	28 年 月 日

# 事務事業評価表（公共施設）

1 事業名	「第4次総合計画」に沿って整理した事務事業名			
2 担当部課	評価表の所属・作成者			
3 事業概要	目的体系	基本目標	「第4次総合計画」に沿って整理した体系	
		政策		
	予算科目	#N/A	業務委託	
	実施義務		国県補助	
	設置条例			

## ●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）	
施設の概要 (簡潔に)	この施設の受益者（事業により便益を受ける人）のために、どのような状態にしたいのか	
目的		
対象者 意図		

5 施設の管理運営状況	
指定管理者	27年度指定管理料 円
施設における通常業務	この施設の主な業務内容
事業の実施内容	(27年度に施設で行った運営事業・自主事業など) この施設の設置目的（項目4）を達成するために、市が行った具体的な取組内容
前年度の課題への対応	前年度の事務事業評価における課題に対する取組内容

6 施設の利用状況	*①は貸館施設のみ対象(ただし年間開設日数は入力) *②・③はどちらかの欄に記入 *			
区分	25年度	26年度	27年度	28年度(予算)
① 施設稼働率	① 施設稼働率 $\text{年間利用実績(時間)} \div \text{年間利用可能時間(時間)} \times 100$			
年間開設日数(日)				
1日の開設時間(時間)				
年間利用可能時間(時間)				
年間利用実績(時間)				
② 年間利用者数(人)	② 年間利用者数  ③ 年間利用件数 ②か③のどちらかを記入 ④ 1日あたり利用者数、件数 $\text{年間利用者数(人)} \div \text{年間開設日数(日)}$ $\text{年間利用件数(件)} \div \text{年間開設日数(日)}$			
有料利用者数				
無料利用者数				
減免措置者数				
③ 年間利用件数(件)				
有料利用件数				
無料利用件数				
減免措置件数				
④ 1日あたり利用者数、件数				
⑤ 施設利用状況の説明				

## 7 コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	25年度	26年度	27年度	28年度(予算)
① 直接事業費	① 直接事業費 平成25年度～平成27年度：決算額 平成28年度：予算額（当初予算）  ② 人件費 正規職員の給与費、法定福利費、退職給与引当金相当額等を含め、 便宜的に、正規職員1人あたり年間800万円として算出  ④ 年間使用料収入額 施設の使用料として実際に収入があった金額  ⑤ 年間減免措置額 施設の使用料のうち、減免した金額  ⑥ 受益者負担割合 施設の維持管理費用のうち、利用者が使用料として負担する割合 $\left( \text{年間使用料収入額} + \text{年間減免措置額} (④+⑤) \right) \div \text{直接事業費} (①) \times 100$  ⑦ 活動一単位あたりのコスト 利用者1人または利用1件あたりにかかった費用			
経常経費				
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分				
② 人件費				
正規職員の人数(人)				
③ 合計コスト(①+②)				
前年度比				
財源内訳				
一般財源				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 施設使用料年間収入額				
⑤ 年間減免措置額				
⑥ 受益者負担割合				
⑦ 活動一単位あたりコスト				
前年度比				
⑧ コストに関する補足説明				

## ●事業の評価 (CHECK)

8 妥当性評価	* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。	妥当性	低い
評価項目	はい	いいえ	
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	各項目で、はい=1 いいえ=0とし、 合計 5点=高い、 合計 3~4点=標準 合計 0~2点=低い		
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。			
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。			
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。			
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。			

9 有効性評価	* 有効性=施設の利用状況（項目6/住民の満足度）は向上しているか。	有効性	#DIV/0!
評価項目	はい	いいえ	
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	各項目で、はい=1 いいえ=0とし、 合計 5点=高い、 合計 3~4点=標準 合計 0~2点=低い		
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。			
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。			
④ 施設の利用者が増加した。 1日あたり利用者数、件数 前年度比 #DIV/0!			
⑤ 施設使用料収入が増加した。 施設使用料年間収入額 前年度比 #DIV/0!			

## ●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善	
課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること) 事業の成果(項目6、8、9)を高めたり、少ない費用で大きな効果をあげていく上で、問題や障害になっている課題
改善方法	(上記の課題をふまえて28年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 上記で把握した課題を解決するための具体的な改善と時期

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	この事業に関する次年度の方針	12 施策評価による28年度の優先度 *H26年度施策評価表より転記すること	事業の優先度
13 大規模修繕の予定			
予定事業費	円	予定時期	
内容	平成28年度以降に、通常の経費以外に必要となる投資・大規模修繕の予定		